

10 人や国の不平等をなくそう



目標 10 人や国の不平等をなくそう

REDUCED INEQUALITIES

●この目標(Goal)の解説

「世界で最も裕福な1%の人が持つ富の合計は、その他の69億人が持つ富の合計の2倍以上」国際NGOオックスファム・インターナショナルは世界の貧困と格差に関するデータを毎年公表しており、前文は2020年版で公表されたデータです。現在、富裕層とその他の人々の格差は想像を絶する規模になっています。目標10ではグローバル経済の中で拡大した各国内、そして各国間の不平等の是正を目指しています。

不平等の原因は性別、年齢、民族、人種、宗教、障がいなど様々です。しかし、「誰一人取り残さない」世界の実現のためには原因に関わりなくすべての人の社会的、経済的、政治的な包含を促進する必要があります。目標10のターゲットには、グローバル経済の構造全体の問題への対処が含まれています。富裕層に有利に働く現在の構造を改善することで、国家間、国内間など幅広い不平等の解決を目指しています。他にもすべての人が平等に豊かさを享受できる世界を目指して機会均等や移民政策、社会保障政策などに関するターゲットが設定されています。しかし、日本の現状を見てみると、非正規雇用と正社員の間での賃金や待遇の格差、高齢者の貧困率の上昇、7人に1人の子どもが相対的貧困、つまり標準的な生活を送れていない状況にある人が多いなど、多くの課題が残っています。

目標10は他の目標を達成するための基礎となる目標です。達成するために行われている身近の例として発展途上国の原料や製品を適正価格で継続的に購入する、フェアトレードが挙げられます。生産者や労働者に適切な賃金が支払われることで、労働環境の向上や、児童労働の撤廃、そして教育を受ける機会均等にも繋がります。



●大学生協での実践事例



埼玉大学生協 ハートフルプロジェクト

組合員が、障がい者の方の活動を知り、身近に感じることで、障がい者の方を取り巻く社会問題について考えるきっかけを作るために行われた取り組みです。多様な人々が、福祉のクッキーを通じて出会い、「まぜこぜ」になって暮らす社会を実現を目的に設立されたクッキープロジェクトという団体と協力し、クッキーの販売や学生委員会作成の冊子を配布するなど、組合員が障がい者の方の活動を身近に感じるきっかけを作りました。



立命館生協 ドライフルーツプロジェクト

一見ハードルの高そうな「国際貢献」を身近に感じてもらうための企画です。学内の国際協力団体と企業と連携し、フェアトレードのドライフルーツを提供しました。フェアトレードの仕組みを説明し、私たち学生でも出来ることを実感してもらえるようにしました。企画終了後に利益の一部は協力していただいた団体を通じてカンボジアに寄付されたということ組合員に伝え、自分たちの行動が世界に繋がっていること、「国際貢献」のハードルは案外低いということを感じてもらいました。



●この目標に対して私たちができること

👉私たちができること／自分の大学・大学生協でできることを考えてみよう！